

今年はずいぶん冬の訪れが早く、先月から寒い日が続いています。東京都心では気象観測を始めた 1875 年以来初めて、11 月に積雪が確認されました。管内の各浜では船の上架も進んでいることと思います。

▼さて、内水面漁業の振興に関する法律が平成 26 年 6 月に公布されました。2 年ほど前のことです。それまでは水産基本法や漁業法などにより規制や振興が図られていましたが、漁獲量の著しい減少や外来種による在来種への被害、減少が著しいウナギの保護など、内水面漁業に限って焦点を当て振興を図ろうとするものです。内水面漁業とは河川・池・沼など淡水における漁業のことですが、淡水で行われる漁業の全てが内水面漁業とは限らず琵琶湖や霞ヶ浦では、漁業法で海面漁業の扱いとなっています。一方、海水が流入する汽水湖の浜名湖や宍道湖は、内水面漁業の扱いとなっています。管内でもサロマ湖は海面漁業、能取湖は内水面漁業となっています。過去からの経緯や行政施策上の違いがあるようです。

▼北海道の内水面漁業に関する漁獲統計は、以前に魚種別漁獲量のグラフを紹介した北海道水産現勢には含まれておりません。現勢は海面漁業だけの集計になっています。北海道の内水面漁業による漁獲量は、さけます内水面水産試験場のホームページに掲載があります。それによりますと 2013 年の河川での漁獲量は 141 トン、湖沼での漁獲量は 4,023 トン、ニジマスなどの養殖による漁獲量が 296 トンで、内水面漁業全体の約 9 割が湖沼での漁獲になっています。ではどの湖沼での漁獲が多いかと見ますとホタテガイの漁獲が多い能取湖が 2,984 トンで最も多く、次いでシジミ、ワカサギ、シラウオなどの漁獲が多い網走湖が 737 トン、次にアサリの漁獲が多い道東の浜中町にある火散布沼で 96 トンとなっています。藻琴湖、濤沸湖、コムケ湖、シブノツナイ湖、網走川などの漁獲量を合わせますとオホーツク振興局管内の漁獲量は、河川や養殖業を含めた全道内水面漁業の約 85% を占め、管内が重要な生産基地になっていることが分かります。また、網走湖のワカサギ受精卵は本州各地の湖や川に放流され、漁業生産や資源の維持に役立っています。ちなみに北海道の湖沼面積のランキングを見ますとサロマ湖は国内第 3 位、以下 6 位屈斜路湖、8 位支笏湖、9 位洞爺湖、13 位能取湖、14 位風連湖、16 位網走湖、17 位厚岸湖、20 位摩周湖、22 位クッチャロ湖、24 位阿寒湖、30 位濤沸湖となっています。なんと 30 位までに 12 の湖沼が北海道に、4 つの湖沼が当管内にあります。

▼網走水試では組織改正により今年度から管内の内水面漁業の課題にも取り組んでいます。主に網走湖のシジミやワカサギ、シラウオ資源に関する課題です。網走湖は上流からの淡水と 7km 下流の河口からの海水により塩分の微妙なバランスを保つ汽水湖です。そのため塩分がシジミやワカサギなどの生息や産卵に大きく影響します。今夏は台風がいくつも北海道を通過し、各地で増水や流木などが見られました。漁業や資源への影響が少ないことを祈ります。船は上架されますが網走湖に氷が張るとスノーモービルによるワカサギの氷下ひき網漁が見られます。（網走水試 上田）